



申20号「新たなジョブローテーションの実施」に関する解明申し入れ(その1)①

第1回団体交渉を行う！冒頭で問題意識を述べる！

(組合) JR東労組は、これまで培ってきたチームで守る鉄道の安全性、輸送サービス、異常時対応力の低下に繋がる恐れのある重大な見直しだと考える。一方、職場では一部肯定的な声もあるが、非常に多くの不安の声も上がっているのが現実だ。労使議論の最中に提案された内容が決定されたかのような報道や、一部の職場で社員説明がされている現状があり、組合員に不安を抱かせている事態は看過できるものではない。団体交渉を通じて労使で議論し、合意形成の上で実施していくことを確認したい。

(会社) 今までのライフサイクルを大きく見直す中身だ。変化が多く生じている。様々な受けとめがあるのは承知している。真摯に議論して肯定的なものはより具体的に、不安はしっかり議論して、労使間でも合意形成が図れるようにしたい。マスコミ報道はプレス発表してはいない。あくまで報道なので、会社としては先般提案した時にも書いてあるが、実施日があり、今年度の8月までに労使議論をしていく。労使議論を重んじてしていくことに変わりはない。最終的に貴側と合意が図られることは一番望ましいというは変わらない。

(組合) 一部職場では労使議論が抜けて現場説明されていると受け止めている実態もある。徹底すべきだ。しっかり団体交渉等を通じて議論したい。

(会社) 提案資料に社員説明だけでなく労使議論があると書いた。スケジュール感もって中身のある真摯な議論をお願いしたい。

第1項 新卒プロフェッショナル採用(駅・乗務員)社員について、これまでの駅、車掌、運転士の順に養成を行う体系を見直し、新たなジョブローテーションの実施を行う目的を明らかにすること。また、これまでのライフサイクルについて、駅、車掌、運転士の順に養成を行ってきた根拠を明らかにすること。

- ・駅、車掌、運転士の順に養成してきた根拠として最初に駅に配置するのは、社会人としての心構え、お客さま第一の視点、稼ぐことの大変さ、大事さなどの経験を踏むことができるからである。
- ・運転士になるにあたり、車掌を経験していくべきとしてきた。
- ・今までの駅、車掌、運転士という順番でステップを踏んで育成すると、環境の変化に対応できない。
- ・駅、車掌、運転士を今まで通りのライフサイクルで経験する方もいる。それ以外の方もいる。
- ・一人ひとりにオーダーメイドのキャリアを示す。柔軟な制度にしなければならない。

第2項 車掌試験、運転士試験を廃止する目的を明らかにすること。

Q(組合)・試験が廃止になり挑戦意欲はどのように反映されるのか。

A(会社)・任用の基準の中に意欲などは含まれている。総合的に任用の基準と表現している。

- ・駅から新幹線の車掌や運転士になれる仕組みになっているが、具体的には検討中である。
- ・車掌、運転士の登用時期は変更する可能性はあるが、現時点では申し上げられない。
- ・他の鉄道会社から中途採用社員として採用された方の適性検査の情報は引き継ぎがない。
- ・応募して試験を受けて合格するという制度の最たるものだ。要員需給もあるので、折り合いはあるが、試験は年1回という感覚だが、断続的に養成することもある。